

日本ナシ「新高」の大果・高品質果実生産のための適正生育指標

[要約] 日本ナシ「新高」の適正樹相は、満開60日後の葉面積指数（L A I）が2.0～2.5、新しょうが約60cm伸長する程度の樹勢で、仕上げ摘果後の着果密度は9果/m²程度が大果になりやすく、収量も多い。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

普及

平成13年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

日本ナシ「新高」は大果で品質も良いが、栽培技術が確立されておらず、産地や生産者間の収量や品質の格差が大きい。そこで、大果（700g以上）で高品質（糖度13以上）の果実を多収（6ト/10a）生産するための生育期における適正樹相及び管理指標を作成する。

[成果の内容・特徴]

- ① 目標果実重、収量及び品質は、1果平均重 700 g 以上、10a当たり 6ト、糖度13以上である（表1）。
- ② 生育期の L A I は 2.0～ 2.5とやや低く保ち、過繁茂にならないようにする（表1）。
- ③ 満開60日の目標果実横径は33mm以上で、着果密度は 9/m²程度に仕上げ摘果を行う（表1）。
- ④ 成熟期の目安は満開約 180日後、積算温度約3,800℃以上で、カラーチャートによる果皮色 4以上、糖度13以上、p H 4.5以上を参考に収穫する（表1）。
- ⑤ 着果密度は 8～ 9果/m²が果実重は重く、収量が高い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- ① 大果ではミツ症や果皮の亀裂等の障害果が発生しやすく、また台風などの強風で落果しやすいので対策をしておく。
- ② 樹勢が強く、L A I が高い場合は徒長枝を主体に間引き、夏季せん定を実施する。

[具体的データ]

表1 適正生育相の指標 (新高)

時期及び項目	生育基準	備 考
目標収量及び品質		
果実重	700 g 以上	
糖度(Brix)	13以上	
着果密度	9果/m ²	仕上げ摘果後
収量	6,000kg/10a	
生育期(満開60日後)		
新しょう長	60cm以上	側枝先端の発育枝
L A I	2.0~2.5	プラントキャノピーアナライザーによる測定値
果実横径	33mm以上	
生育期(満開90日後)		
新しょう長	80~90cm	90%程度の新しょうが伸長停止
果実横径	55mm以上	
収穫期		
成熟日数	180日	満開期~収穫期
積算温度	3,800℃	満開期からの日平均気温の積算
果皮色	4以上	果実ていあ部のカラーチャート値
糖度	13以上	赤道部の果汁
p H	4.5以上	

表2 着果密度と収量、樹体の生育及び果実品質(1997~2001年平均)

園	収 量 (kg/10a)	着果密度 (果/m ²)	新梢長 [*] (cm)	L A I [*]	果実横径 [*] (mm)	果実重 (g)	果肉硬度 [†] (kg)	糖 度 (Brix)	p H
A	5,807	9.0	58.9	2.28	29.6	642.3	5.0	12.0	4.92
B	5,406	9.9	60.6	2.53	29.9	548.2	5.4	12.2	5.00
C	6,462	8.3	68.3	1.93	30.8	774.5	5.1	12.5	5.03
D	5,382	10.1	74.8	2.37	28.3	540.1	4.7	11.9	4.95
E	5,545	8.8	59.8	2.22	31.8	628.4	5.4	13.5	5.05

^{*} 満開60日後

[†] マグネステラー型硬度計 (プランジャー径5/16インチ)

[その他]

研 究 課 題 名 : 西南暖地の特性を活かした晩生ナシの超高収益栽培技術の開発

予 算 区 分 : 新技術地域重要実用化研究促進事業

研 究 期 間 : 平成13年度 (平成 9~13)

研 究 担 当 者 : 田中 実、中倉 建二郎、森田 昭、林田 誠剛